ブロック塀より強い発泡スチロール塀　東京の企業が開発

#東京 #関東大震災100年 #関東

2023/3/6 5:00 [有料会員限定]

ブロック塀より強い発泡スチロールの塀を開発した（埼玉県鴻巣市のライノジャパンの工場）

建材メーカーのライノジャパン（東京・新宿）は、ブロック塀より強度の高い発泡スチロール製の塀「ポリウレアシールドウォール」を開発した。ポリウレアと呼ばれる樹脂をコーティングすることで、軽量でも衝撃に強く倒壊しにくくなるという。地震発生時に倒壊の危険性が指摘されるブロック塀に代わる商品として売り込む。

同社によると、ポリウレアは防水性が高く摩耗にも強い素材で、日本では2010年代から普及し始めた。液体のポリウレアを発泡スチロールに吹き付けると10秒ほどで硬化し、高い耐衝撃性や耐摩耗性を発揮するという。

基礎の溝に塀を差し込み、モルタルで地中部分を固めることで倒れないようにする。一般的なブロック塀の重さは1平方メートル当たり100キログラムを超えるが、同社の塀は10キログラム程度のため、仮に倒れた場合でも安全性が高いという。

施工のしやすさも特長で、ブロック塀に比べて設置に要する工期は4分の1程度で済む。総工費はブロック塀と同水準という。

同社は塀を生産するための新工場を埼玉県鴻巣市に建設した。学校などからの需要を想定している。既に住宅のエクステリアで使用する塀などとして注文が入っていて、生産は3月中旬ごろから始めるという。

今回の新製品を開発するきっかけは、18年6月に大阪府北部で最大震度6弱を観測した地震。小学校のブロック塀が倒壊し、登校中の女子児童が下敷きになって死亡する被害が出た。「倒壊の危険性があるブロック塀は今も全国に存在する。どうにかしなければと思った」（緒方修一社長）という。

ポリウレアシールドウォールは1月、災害時における安全性に優れているとして一般社団法人防災安全協会（東京・世田谷）から「防災製品等推奨品」に認定された。

都が22年5月に公表した首都直下地震の被害想定では、地震発生直後に倒れたブロック塀の下敷きとなり多数の死傷者が発生すると指摘する。23年は関東大震災から100年の節目。同社は防災の機運が高まるこの機に新製品を周知し、普及を図っていく構えだ。